



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年2月5日

上場会社名 株式会社ハウス オブ ローゼ 上場取引所 東
 コード番号 7506 URL <https://www.houseofrose.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 達彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐藤 哲 (TEL) 03-5114-5800
 四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の業績 (2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	9,071	0.6	246	79.6	252	48.4	105	71.1
2023年3月期第3四半期	9,019	7.5	137	△32.7	169	△25.3	61	△40.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年3月期第3四半期	22.51		—					
2023年3月期第3四半期	13.16		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	8,960	5,701	63.6
2023年3月期	8,832	5,741	65.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 5,701百万円 2023年3月期 5,741百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2024年3月期	—	12.50	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,550	5.4	300	95.2	290	53.7	247	△51.6	52.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期3Q	4,703,063株	2023年3月期	4,702,063株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年3月期3Q	633株	2023年3月期	633株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期3Q	4,702,430株	2023年3月期3Q	4,702,430株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期損益計算書関係)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

この度の「令和6年能登半島地震」で被災された皆さま、及びご家族をはじめ関係者の皆さまに心からお見舞い申し上げます。

第3四半期に入り国内景気は、企業収益は総じて改善が進み、消費環境においてもインバウンド需要の高まりや株価の上昇に伴う個人消費の押し上げ効果により、旅行関連や高額品の需要が堅調に推移し、都市部百貨店等の業績も持ち直しを見せる一方、特にサービス業において人手不足感はますます強くなりました。

(直営店商品販売事業)

ハウス オブ ローゼ直営店は、コロナ禍の収束に伴い、ハンドウォッシュ（お客様の手を顔に見立て、洗顔料等を使用しお客様の手に触れながら洗顔方法をお伝えする、当社の強みである販売手法）を再開し、お客様一人ひとりに対する「ふれる（触れる）接客」を通じた販売力を再強化することでスキンケア化粧品の売上増加を図りつつ、業績向上に取り組んでいます。9月にリニューアルした保湿美容液「モイスチュアコントローラー」の売上は好調を維持しており、保湿ケアライン「ミルキュアピュア」の洗顔料も販売強化に伴い大きく売上伸長する等、スキンケア化粧品売上高は着実に増加しました。一方、第1四半期に苦戦したボディ化粧品や雑貨商品売上高は、ボディスムーザーの新たな期間限定品が健闘しましたが、前年同期比で減少となりました。店舗数が不採算店舗の退店等により12月末時点で前年同期末より11店舗減少したため、累計売上高は前年同期比2.6%減となりましたが、既存店ベースではほぼ前年同期の水準を確保しました。

EC事業は、コロナ禍の収束に伴うリアル回帰により、EC業界自体の伸長率低下が指摘される中、当社EC事業においても売上伸長率はコロナ禍に比べ鈍化傾向で推移していましたが、Amazonモールを始めとした外部モールについては、モールごとの各種イベントを的確に捉えることを重視した中で、特に11月のブラックフライデーイベントが活況で計画を上回る売上伸長となりました。12月はその反動減がみられましたが、総じて売上増加に資することができました。自社ECにつきましては、会員数は堅調に増加しているものの新規注文数が減少、ウインターセールも計画を下回るスタートとなりました。当事業の今期累計売上高は、前年同期比5.7%増となりました。

他の直営店販売事業を加えた当事業売上高は、今期累計で68億58百万円（前年同期比1.4%減）となりましたが、ハウス オブ ローゼ直営店でスキンケア化粧品の売上高が増加、スキンケア売上比率も拡大したことで、売上原価率が低下し、営業利益は42百万円（前年同期は営業損失21百万円）と黒字転換となりました。

(卸売販売事業)

個人オーナー店舗向け卸売上高は、12月の新店オープンやウインターセールの納品増等により今期累計売上高は前年同期比で微増となりました。また大手量販店向けは、季節限定商品やウインターセールの納品増に加え、卸売先からの返品を抑制する取り組みも寄与した他、その他国内一般卸では、当社は以前から株式会社オリエンタルランドと取引があり、同社から委託を受けオリジナル商品等を東京ディズニーランド（以下、TDL）向けに卸売をしていますが、今年はTDL開園40周年で取引額が大幅に増加したことが寄与し、今期累計売上高は、前年同期を大きく上回りました。一方中国向け越境EC卸売は、中国市場の回復の遅れや日本製品への忌避感情もあり低迷が続きました。

他の卸売販売事業を加えた当事業売上高は、今期累計で12億94百万円（前年同期比11.0%増）となりました。また売上増に加え、不振の大手量販店ショップへのスタッフ派遣を中止する等改善を進めた結果、営業利益は91百万円（前年同期比48.6%増）に増加しました。

(直営店サービス事業)

リラクゼーションサロン事業は、施術単価の高いロングコースの需要が好調に推移、またブラックフライデー等のイベントや季節に応じた販促施策も奏功しました。一方で、行楽シーズンに来店客数が減少する傾向も見られました。店舗数では、今期も不採算店2店舗を退店し12月末時点で前年同期末より3店舗減少したため、今期累計売上高は前年同期比5.6%減となりましたが、既存店ベースでは微増となりました。

カーブス事業は、引き続き既存会員へのサポート強化と退会者の抑制に努めると共に、自宅でもトレーニングができる「おうちでカーブス」をセットにしたWプランの推奨やプロテイン等の販売にも注力しました。またフランチャイザーであるカーブスジャパンのTVCM効果も寄与し、12月末時点の会員数は前年同期末比で約170名増となりました。スタッフ不足が続く中、今期累計売上高は前年同期比8.4%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は今期累計で9億18百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益はカーブス事業が牽引する形で1億12百万円（前年同期比16.5%増）となりました。

以上、当第3四半期累計期間の全社売上高は、90億71百万円（前年同期比0.6%増）となりました。一方経費面では、今期からリラクゼーションサロン事業の一部人件費を売上原価に移行したため、全社売上原価率は上昇しましたが、ハウス オブ ローゼ直営店の売上原価率は低下し、人件費に関しても、店舗数減に伴う従業員数の減少に伴って低減したことから、営業利益は2億46百万円（前年同期比79.6%増）と大幅に増加、四半期純利益は1億5百万円（前年同期比71.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末より1億27百万円増加し、89億60百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より1億44百万円増加し、58億78百万円となりました。これは主に売掛金が3億93百万円、商品及び製品が1億73百万円、その他の流動資産が58百万円増加し、現金及び預金が4億80百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末より17百万円減少し、30億81百万円となりました。これは主に差入保証金が17百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末より1億67百万円増加し、32億58百万円となりました。これは主に電子記録債務が4億98百万円増加し、短期借入金が1億50百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億円、賞与引当金が1億31百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末より40百万円減少し、57億1百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が28百万円、利益剰余金が11百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、前回発表（2023年5月15日決算短信）に記載の業績予想に変更はありません。上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,300,688	2,820,438
売掛金	862,605	1,256,020
商品及び製品	1,559,015	1,732,201
その他	12,549	70,976
貸倒引当金	△1,049	△1,049
流動資産合計	5,733,808	5,878,586
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	313,288	307,143
工具、器具及び備品（純額）	16,999	19,644
土地	1,066,868	1,066,868
リース資産（純額）	90,618	83,850
有形固定資産合計	1,487,774	1,477,507
無形固定資産	29,122	14,689
投資その他の資産		
差入保証金	555,494	537,663
その他	1,026,619	1,051,905
投資その他の資産合計	1,582,113	1,589,569
固定資産合計	3,099,010	3,081,766
資産合計	8,832,819	8,960,352
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	203,873	182,656
電子記録債務	452,118	951,113
短期借入金	150,000	—
1年内返済予定の長期借入金	100,000	—
未払法人税等	1,717	98,043
賞与引当金	175,536	44,400
その他	650,469	607,535
流動負債合計	1,733,713	1,883,749
固定負債		
退職給付引当金	1,175,272	1,201,163
役員退職慰労引当金	101,614	110,434
資産除去債務	17,208	25,838
その他	63,224	37,563
固定負債合計	1,357,319	1,374,999
負債合計	3,091,033	3,258,749
純資産の部		
株主資本		
資本金	934,682	934,682
資本剰余金	1,282,222	1,282,222
利益剰余金	3,453,350	3,441,640
自己株式	△724	△724
株主資本合計	5,669,530	5,657,819
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	115,989	87,517
土地再評価差額金	△43,733	△43,733
評価・換算差額等合計	72,255	43,783
純資産合計	5,741,785	5,701,603
負債純資産合計	8,832,819	8,960,352

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	9,019,799	9,071,073
売上原価	2,595,233	2,660,006
売上総利益	6,424,566	6,411,066
販売費及び一般管理費	6,287,262	6,164,478
営業利益	137,303	246,588
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	3,304	3,786
受取助成金	※ 9,731	※ 1,200
受取補償金	20,883	—
その他	4,232	3,921
営業外収益合計	38,156	8,912
営業外費用		
支払利息	5,171	2,674
その他	322	633
営業外費用合計	5,494	3,308
経常利益	169,965	252,193
特別利益		
投資有価証券売却益	10,000	—
特別利益合計	10,000	—
税引前四半期純利益	179,965	252,193
法人税、住民税及び事業税	77,206	81,980
法人税等調整額	40,889	64,362
法人税等合計	118,096	146,342
四半期純利益	61,869	105,850

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

※ 受取助成金

前第3四半期累計期間の受取助成金は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う休業・営業時間短縮要請等を行う大規模施設に対する協力金を計上しております。

当第3四半期累計期間の受取助成金は、新型コロナウイルス感染症に係る小学校等の臨時休業等に伴う保護者の休暇取得に対する支援金を計上しております。